

第4章 環境市民会議の取り組み

地域の環境をよくするためには、市民・事業者の皆さんの取り組みが鍵となります。

この章では、環境市民会議の皆さんが各地区においてそれぞれ調査した環境の現状と、一年間の取り組みを報告するものです。

皆さんが住んでいる地区の身近な環境について、知る、考える、行動するきっかけとなれば幸いです。

環境市民会議とは？

環境基本計画では、市内を6つの地区に分け、地区ごとに目指す環境の姿を定めるとともに、地区の環境の現況・課題を整理したうえで、多くの課題から絞り込んだ重点課題と、その解消に向けた重点目標、重点取り組みを「地域行動編」として示しています。

その地区の一人ひとりの行動が最も重要ですが、その地区の取り組みの推進力となるのが環境市民会議で、市民・事業者によって自発的に環境保全活動を実践する組織です。

この計画の「地域行動編」は、この環境市民会議の皆さんによって策定されたものです。

地域行動編の目標を達成するためには、当該地区内の町会・自治会や事業者、各種団体との連携はとても大切です。

【環境市民会議6地区の区域】



中央地区環境市民会議が調べた環境の現状

八王子の中心市街地のあたる中央地区では駅南口の開発やＪＲの踏切の立体交差等はさかんに進むが、町の街路樹が増えたり、公園や公園の緑が増えたりすることはない。町の緑は現状維持すら難しい。浅川の水質は良くなっているが、絶え間ない河川改修工事で生き物の住める環境が維持できない。又、河川敷にオオブタクサ等の外来種が多く見られる。

地球温暖化に対する関心は高いが、市民の実質的な省エネ行動には至っていない。

■ 環境フェスティバルへの参加

２００９八王子環境フェスティバルでは、各部会が協力して出展し、多くの市民に中央地区環境市民会議の取り組みを紹介することができました。

■ 河川環境

浅川巡回パトロールを積極的に実施し、会員に内容を報告するとともに、必要により関係行政へ報告と対応を要請しました。

中央地区の重点課題である浅川の清掃活動は、河川敷を重点年２回実施しました。実施にあたっては関係町会への事前に告知し、第一回は１１月に浅川合流点の川口川中野橋下（子どもたちが魚釣りや魚の群れを観察する場所）周辺の河川敷を清掃（１２名参加）しました。第二回は３月に浅川橋下の川のなかを主体に、残留ごみや不法投棄されたごみを清掃（１４名参加）しました。その他機会をとらえてはごみの収集に心掛けています。河川環境は一地区だけで解決するものではありませんが、より良い水辺環境を確保し、誰もが親しめる浅川であるよう、これからも地道に努力していきます。

６月７日に全国一斉水質調査に参加し、浅川の浅川大橋と鶴巻橋直下の地点で水質調査を行った結果、水質は年々改善され、２地点とも「ＣＯＤ（ｍｇ／ｌ）１」でした。

９月１２日に第５回自然体験講座「浅川ふしぎ探検」を企画し、当日は雨の予報にも拘わらず親子あわせて４５名の参加がありました。気温が低かった（２１度）にもかかわらず「親子ともども楽しめた」と好評でした。

八王子浅川子ども水辺協議会への協力については、「ウグイの放流イベント」（第一回６月２９日、第二回７月２日）にはスタッフとして延べ１５名が参加しました。ウグイの放流を契機にかわ部会独自の取り組みとして「ウグイの産卵環境を整えて、産卵の促進」と「ウグイの生態観察」のため、ウグイの産卵場を浅川の浅川大橋上流に造成（６月３０日、７月１日）しました。

７月２６日の０９ガサガサ探検隊に１３名が、中央地区における小学校環境教育の支援活動には延べ２２名がスタッフとして参加しました。また、１０月２３日には、浅川の外来植生（アレチウリ、オオブタクサ、キクイモ）の分布調査に参加しました。



八王子環境フェスティバルに出展



恒例になった「浅川ふしぎ探検」

■ 大気汚染

大気汚染の測定を、10ヶ所について行ってきたが、主要幹線道路の16号大和田小交差点のバイパスと20号バイパス大横町交差点など、これまでの測定の平均値が環境基準値を超える0.060ppm以上のものが確認された。

■ まちのみどり・まちの美観

甲州街道から千人町西八王子駅付近のイチョウ並木通りは素晴らしいと感じています。八日町付近の電柱の地中化や歩道整備は済みましたが、緑が少なく残念です。東方（明神町）に入ると多少の街路樹は大きくなり目を引くようになりました。八王子駅北口前の桑並木通りの樹木が大きくなると、緑多き公園通りに貢献すると思われます。再開発中の駅南側では、民地での緑の増加があれば、2、3年後には八王子駅の南北周辺を含めて、八王子のイメージアップに貢献ができればと期待します。

なお、21年度は、「グリーンマップ」の詳細版を作成しました。

■ ごみの減量・資源循環

4月のみづき通りフェスティバル、6月の環境フェスティバル、7月の中野七夕まつり、10月の子安・台町市民センターまつり、11月のいちょう祭りに環境コーナーをもうけ、市民に正しいごみ分別とごみの出にくい生活の話をして環境のミニ情報が分かる環境クイズを実施しました。



みづき通りフェスティバル

北野のエコひろばでは定期的に環境学習見学体験ツアーを行い、多くの市民が清掃工場の見学と、ごみ分別体験を行いました。



『グリーンマップ詳細版』多賀神社（写真）など8か所の神社の個別紹介版を作成

■ 地球温暖化防止

北野のあったかホールにある環境学習室「エコひろば」を拠点として、環境変化の現状や市民に何ができるのか等を説明する「省エネルギー教室」を6回実施し95名の参加がありました。

7月には小・中学生を対象とした「子供ミーティング」で太陽系の話を変え環境の大切さを話しました。又、法人会からの依頼で加住と由井で2回「省エネルギー教室」を開催し54名の方が参加してくれました。



「エコひろば」で省エネルギー教室

北部地区環境市民会議が調べた環境の現状

北部地区は加住北、南丘陵に挟まれた谷地川が流れており、水質は下水道の整備に伴い改善されています。上流部のきれいな水に棲む生物が下流域でもみられ、カワセミ、サギ類、カモの種類もみられるようになりました。みどりの拠点である滝山公園、小宮公園、栗の須緑地の保全を関係団体と協力して行い、なかでも滝山城跡においては城郭の歴史を探り、環境保全を行う目的で下草刈を行っているほか、独自に作成したガイドマップで啓発活動を継続しています。

■ 水

八王子の最も北側を流れる谷地川は、北部地区の中央を横断する全長12.9kmの川です。

谷地川の水質（COD値）と水生生物を二ヶ月に1回調査しています。下水道の整備により水質の改善、及び20種類以上の水生生物が確認されています。



谷地川上流部での水生生物調査



滝山城跡を散策

■ みどり・生き物・景観

「滝山城跡群・自然と城跡を守る会」と共同し、滝山城址の景観を保護するため藪払いを行っています。

八王子のルーツでもある滝山城跡の歴史的価値を広く都民に知っていただくため、自然体験講座や探索会なども行っています。

■ ごみ

二ヶ月ごとに町単位の不法投棄巡回パトロールを行いました。

不法投棄の行われる場所の傾向がつかめ、調査結果を市に報告し、撤去を依頼することで、かなりの改善がみられました。

また、谷地川の清掃活動を定期的に行っています。



不法投棄巡回パトロールで発見

■ 大気

簡易カプセルによる NO_2 の測定を、国道16号バイパスや滝山街道などの幹線道路を中心に26地点で、夏・冬2回実施しました。交通量の多い幹線道路では環境基準を上回っています。

大気測定結果は八王子大気汚染測定ネットに報告し、各市民会議や独自に測定されている市民の方々のデータと比較しています。

■ 環境教育

環境教育の支援として小宮小学校の4年生を対象に、多摩川の水質や水生生物、植物や鳥、化石、昆虫など川の様子を調べる活動を支援しました。小宮小学校は9月、10月に実施し、他の小学校の環境学習にも協力しました。

■ その他

2009八王子環境フェスティバルに参加し、北部地区の環境の状況を展示するとともに、地区の自然度を表す谷地川の生き物を展示しました。



八王子環境フェスティバルでの展示風景

西部地区環境市民会議が調べた環境の現状

古来より発展してきた地域は歴史・文化も数多く残り、豊かな自然に恵まれ、多様な生態系が形成されています。

近年は、大規模開発や農林業の高齢化と後継者不足で森林荒廃や農地の宅地化が急激に進み、恵まれた自然環境も大きく変化しています。

地域を流れる醍醐川、案下川、大沢川、城山川、小津川、山入川、川口川などは浅川の重要な源流として位置付けられていますが、自然地の保水力や浸透性が低下し湧水の枯渇や河川流量の減少による瀬切れの発生箇所が増えている事態が懸念されています。

市街化区域では生活排水が流入して河川の水質悪化が大きな問題になっていましたが、下水道整備と市民の環境意識が高まり、徐々に水質改善が図られてきています。不法投棄については相変わらず山間部では不法投棄が繰り返され、一般道や河川にもポイ捨てが目立ち、町会・自治会・事業者・行政との更なる働きかけや連携が必要になっています。さらに地域では民間の産廃最終処分場計画、物流拠点整備計画など土地開発事業の計画化など新たな課題も生まれています。

■ 自然体験講座「夕焼け小焼けふれあいめぐり」(恩方地区)

11月29日、下恩方の地域発見と旧跡を訪ねる体験講座を開催。

コースは恩方市民センターを出発して深まりゆく秋の小田野城跡、心源院を巡り、八王子車人形(西川古柳座)では稽古場に入場して三番叟、フラメンコの実演や人形の操り方の説明を受けました。

小田野中央公園では手づくり公園の取り組み経緯を説明、下原刀の発祥地を巡り、観栖寺では松姫伝説を住職から説明を聞いた後、『夕焼け小焼け』のモデルになった鐘の前で秋の日没も迫り、『夕焼け小焼け』を全員で合唱して、解散しました。



観栖寺 鐘つき堂

■ 学校と連携した体験活動(川口地区)

川口小学校5年生73名の農業体験(田植え、稲刈、脱穀、そして収穫米を精米して餅つき体験)に加え、9月12日(日)には川口川の生き物調べを行いました。先生、保護者、児童、そして川口地区青少対と連携して参加者は60名を超え、水網で生き物を捕獲して生息種類を調べ、川の水質もパックテストで調べました。きれいになった川にはトビゲラ、クロスジギンヤンマのヤゴ、ホトケドジョウ、シマドジョウ、外来種のウシガエルのオタマジャクなどが確認されました。



田植え体験



川口川の生き物調べ



トンボノヤゴ・トビゲラ



川口川の水質調査

■ 川口川水質調査（川口地区）

川口川源流域までの活動区域内（15*□）に定点観測点（15ヶ所）を定め、年2回、CODパックテスト、排水の実態、河床の水枯れ（瀬切れ）の発生や周辺環境の様子について調査しています。

渇水期には中流域や上流域では慢性的に河床に水枯れ（瀬切れ）が発生して深刻な事態が起こっています。また、集中豪雨時には保水性が低下した丘陵地、宅地化が進んだ周辺では河川流入量が増加する傾向が見られ、川口川の源流域は年間を通して河床に水枯れが確認されています。

■ マイバッグ普及に関する実態調査（川口地区）

川口商店会まつりに参加して3年間継続して取り組んできた「レジ袋削減とマイバッグ普及アンケート調査」では、レジ袋を貰わないと回答した市民は3年間の平均値では34.4%でした。

21年度八王子市マイバック持参率調査に時期をずらして、地域店舗で出先調査を実施しました。開店から午後2時までの調査では店舗利用者の46.8%がマイバックを持参していました。

今後も年1回実態調査を行い持参率の向上を努めていきます。

■ 地域の美化、清掃活動（恩方地区）

手作り公園の地域活動にも積極的に参加して、ごみ拾いや剪定などの美化活動に参加しました。

また、山間部の不法投棄の清掃活動は年中行事化して、地域、警察、他団体と連携した活動が定着しましたが、不法投棄の実態は目に見えて改善されているという状況ではありません。今後も監視体制を継続しながら不法投棄を減らしていく取り組みを進めていかなければなりません。



マイバッグ普及実態調査



除草作業

■ 大沢川のクリーン活動（元八地区）

大沢川（城山川支流）は、不法投棄やごみのポイ捨てなどによる漂流ごみが目立つので中流域の柳橋から恵橋までを年4回（3月、6月、9月、12月）ごみ回収を行っています。

平成21年度は大沢川流域町会（式分方・千本木・関口）・元八王子中学校生徒などが参加し共同作業の結果、ごみ23.2m³を回収したほか、漂流ごみが付着し景観を阻害する河川敷の灌木（桑・くるみ等）も伐採しました。

なお、6月には全国一斉水環境調査に昨年度に続いて参加して大沢川、城山川の水質検査では、CODパックテスト（D）を実施しました。この調査は今後も継続していく予定です。

■ ホタル保存会の活動（元八地区）

5年前、城山小学校東側の小川でホタルが発見されたことをきっかけに、環境市民会議が主導し、元八二丁目町会、城山小学校関係者の有志で「城山小地区ホタル保存会」が発足しました。活動内容は、地域住民との協働で毎年5月に川掃除、6月にはホタル講座と鑑賞会を開催し、地域の子どもたちに自然を大切に守る意識を啓蒙しています。

平成21年度のホタル講座には、近隣の親子50人が参加し、ホタルの生きられる環境について知識を深めました。

今後も地域の貴重な財産であるこの環境を守りたいと考えています。



ホタル講座

西南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

高尾山を中心とする豊かなみどりに恵まれた地区ですが、町田街道などの大気汚染、一部河川の汚れ、山間部における不法投棄と取り組まなければならない問題を抱えています。特に最近、高尾山の入山者が大幅に増え様々な環境問題が発生し、高尾山の貴重な自然が失われる恐れがあります。また、現在建設中の圏央道による環境への影響が懸念され、騒音、大気汚染及び動植物などの自然環境を監視していく必要があります。

地域全体の取り組みとしては、地域を一つの博物館と考えるエコミュージアム構想に基づき「地域の宝の掘り起こし」に、里山保全活動では池の沢館町緑地をベースに蛍観察会など各種自然体験講座に取り組んでいます。また、現在市が検討を進めている旧高尾自然科学博物館跡地の「高尾の里拠点施設」の設計・運営等に対して、市へ積極的に働きかけています。

地域の啓発活動にも力を入れており、市民センター祭りで取り組み課題を展示し、いちよう祭りでのごみ分別指導など、積極的に進めているところです。

■ 高尾山の保全

毎年定期の環境指標植物 1 3 本

(1 本枯死、1 件伐採) の樹勢調査 (3 月) 高尾山のセッコク (6 月) やシモバシラ (1 月) の観察会で高尾山の環境変化を目視観測や写真にて記録し、追跡しております。最近、高尾山への入山者が急激に増加し、自然への悪影響が心配されます。



指標植物：枯死・伐採



指標植物：工事・伐採

■ エコミュージアム

地域の宝を掘り起こし、再認識しようと地域の宝起しウォーキングを狭間地域 (1 2 月) 及び高尾、狭間、東浅川、長房の北地域 (2 月) を自然体験講座として一般市民も参加して行ないました。前もって下見を行い、コース案内図と地域の宝の写真、説明文を整理して、当日資料として参加者に配布しました。

■ 「高尾の里拠点施設」

高尾の自然科学博物館を考える会と合同で市と協議 (1 1 月) 及び合同幹事会 (1 2 月) を行いました。市の財政上、「高尾の里拠点施設」の開設は当初より 5 年弱遅れて平成 2 6 年となります。



自然体験講座

■ 里山保全

寺田地区の3か所の里山の自然と管理状況を調査記録しました。北部と北西部の湧水調査は計画のみで終わってしまいました。

子ども自然体験実行員会主催（6月）「池の沢に蛍を増やす会」と当会主催（6月）で「蛍観察会」を行い、一般市民を含めて112名の参加がありました。緑の交流事業（8月）企業の従業員・家族の里山保全活動を「池の沢に蛍を増やす会」と協働で開催し、延べ105名の参加がありました。



寺田地区里山調査

■ 流域の水質調査

全国一斉水質調査による西南部地区20ヶ所の水質は平均してCOD = 2以内で安定しています。ただし拓殖大学&穎明館高校から流出する排水はCOD = 5で透明度も著しく悪く、水循環部との協力を得て今後の改善を進めていきたいと考えています。殿入川流域には新規住宅の建設が進み併せて防犯灯の輝きによって、池の沢休耕田の蛍は姿を消し、奥の湿地帯に逃げ込んでしまっています。蛍棲息保護のためには極力照明を落として貰いたいですが、通学路の照明も必要として両立は難しい面があります。

湯殿川護岸工事に伴う小魚や蛍の保護対策は南多摩西部地区建設事務所と協議は進めていますが、絶対的な工法がなく、今後の課題として両方で協議・調整して行きます。

御霊神社脇から救出したホトケドジョウは池の沢の新池で越冬に成功しましたが、湯殿川への早期放流を図って行きます。案内川・小仏川の小魚はかなり多く、岸辺での捕獲は容易になりました。

■ 大気汚染測定

2009年12月の測定（23箇所）数値は測定開始以来最良のデータでした。良好な数値の要因は定かではありませんが、天候だけでなく車の流れが良くなったことは確かです。町田街道高尾消防署四つ角を始め右折区分車線による渋滞緩和も要因と考えられます。また、エコカーの増加によるエコドライブ普及等も見逃せません。

■ ごみ減量

ごみ量の削減に関する知識や情報のパネルの更新や新規作成をして、浅川、長房、横山南の市民センターまつりや環境フェスティバル等でごみ削減の啓発活動を行いました。また、生ごみの堆肥化の実践例調査を行いました。めじろ台南公園での全落葉を堆肥化し、隣住民に配布するとともに家庭での堆肥化の垂範をしています。



堆肥の配布会

11月のいちょう祭りでは、環境委員会を主管し、都立八王子桑志高校の生徒210名や大学生ボランティアを指導し、32万人の来場者と300出店団体にゴミ分別と意識向上に努め、資源物の回収を行いました。都立桑志高校のいちょう祭りでのゴミの回収分別の奉仕活動が、東京都教育委員会で収録DVD化し、市民協働の成功事例として都下全高等学校に配布されました。（実績：可燃約3トン、不燃物12m³ほか）

さらに、日常生活の中で楽しくごみ削減が経験できる、エコレシビの実習も継続実施しています。

■ 環境教育支援・地域環境診断

環境教育支援として当地区の小学校を中心に支援に取り組み、また、地域環境診断として河川の水質、水生生物、貴重な植物や蛍の調査を継続しています。

東南部地区環境市民会議が調べた環境の現状 「ふるさとの八王子を美しい街に！」

東南部のみどりは、みなみ野ニュータウン開発が一段落しましたが、周辺域での小規模開発によりみどりが減少し、手入れの行き届かない放置された里山が見受けられます。

東南部の浅川水系の河川水質は、山田川下中田橋を除いてCOD値2～3を示しています。やや汚れている水からきれいな水にするには、徹底した家庭でできる水質浄化の取り組みや河川へのゴミのポイ捨て禁止の啓発を続けていく必要があります。

街の美化に多少でも貢献しようと定期的に北野駅周辺の道路の清掃活動を始めました。湯殿川の定期清掃にも取り組んでいます。

大気汚染として、21年度は東京都一斉NOx測定に2回参加しましたが、16号バイパスでは数値の悪い場所が多く今後とも大気汚染防止の必要があります。

■ 環境学習・啓発活動



竹いかだで浅川下り



間伐材で丸太プレートづくり

8月の夏の浅川自然体験講座（浅川で竹いかだ遊びと川の生きもの調査）と11月に秋の長沼自然体験講座（長沼公園散策といも掘り大会）を行い、合計参加者子ども34名、大人30名、スタッフ29名、計93名と大盛況でした。参加者からは、「浅川はきたない川だと小さい頃から思っていたが、こんなにきれいになっているとはおどろきました。」や「たいへん充実していてびっくりするほどでした。地元に住んでいても知らなかった事を沢山教わり楽しかったです。芋掘り、竹トンボ初体験でした。」と感想をいただきました。

環境フェスティバルでは、地球温暖化にやさしいケナフの苗・種の配布や丸太プレートのお絵かき教室を行い盛り上げました。2月には東京都公園協会の「東京みどりと水のボランティア展」に出展し、環境ボランティア活動の大切さを啓発しました。

3月に新日鉄君津製鐵所のプラスチックリサイクル設備を見学し、プラスチックの種類を問わないリサイクルの取り組み（コークス炉化学原料化法）の理解を深めました。

■ 河川・水質

6月（全国一斉）と12月に14ヶ所の水質調査を行いました。浅川、湯殿川、兵衛川、山田川の水質は少しずつきれいになってきています。6月の浅川での「エコキッズ水質調査隊」や8月の「夏の浅川自然体験講座」では、親子で川の生きものと水質調査を行い、きれいな川・親しみやすい川・遊びたい川を実感してもらいました。4月の浅川・湯殿川クリーンデー、7月の湯殿川クリーンデー、9月のみんなの川の清掃デー、12月の湯殿川クリーンデーを流域町会の皆さんと行い、川に関心を持ち、川を美しくする活動に大きな成果を上げました。



浅川での水質調査

■ みどり・歴史景観

片倉台と北野台のみなさんと絹の道の拠点の大塚山公園アドプト参加の清掃や御殿山尾根道を美しくする活動を行っています。大塚山公園も写真のように整備されました。平成16年から続けてきたアドプト活動について市より表彰されました。絹の道や小野路道ハイキングマップを配布し、市民の方に自然と歴史の散策を楽しんでいただいています。



大塚山公園は古き歴史の道

■ ごみ分別・収集・リサイクル

市のごみ組成分析に立会い、データを分析、分別徹底の啓発資料を作成しています。資源可能物の混入率が5%以下になることが望ましいと思っていますが、現在入手したデータから、市全体としては、可燃物の資源可能物の混入率は20%ですが、家庭系可燃物の地域別資源可能物の混入率は6～35%、事業系の規模別資源可能物の混入率は11～40%とかなりばらついています。重点的な調査対象を決めて資源可能物の混入率を調べ、そのデータを有効に使うことはごみ減量・資源化に大いに役立つと思われます。

今年度10月からプラスチックの資源化拡大と可燃・不燃の分別の変更、個別収集化が始まるので、状況の変化に注目して行きたいと思います。

■ ごみのポイ捨て・都市の美観

東南部地区（北野・由井事務所管内）では地区内の駅（JR片倉・みなみ野・北野・長沼・山田・京王片倉）周辺道路19カ所でのきれいさ評価（ごみ拾い・分類・カウント）を7年間続けています。グラフに現されているようにごみは減少しています。19年1月から歩きタバコ禁止条例が施行されました。条例周知のポスターの掲示、退色したポスターの張替えを実施しました。今後この条例の効果でさらにポイ捨てたばこが減少することを期待するとともに、東南部の中心地区である北野駅周辺が路上喫煙禁止地区に指定されたばこの吸い殻の落ちていないきれいな街になることを期待しています。

ごみは植えこみや水抜き穴の中など見えにくいところに目立ちます。たばこの吸殻は路上にもまだまだ捨てられています。東南部ではきれいさ評価に加えて毎月1回第4月曜日の朝9時から街が美しくなることに多少でも貢献すべく北野駅周辺のごみ拾いを始めました。

■ 大気・騒音・地球温暖化防止

年2回のNOx簡易測定を実施し、また環境フェスティバルでは地球温暖化防止に役立つケナフの苗や種を配布し、各家庭で育ててもらい環境への市民参加の場づくりを行いました。

東部地区環境市民会議が調べた環境の現状

東部(由木)地区の南側は多摩ニュータウンとして、又、北側は多摩丘陵が東西に走り地域の特色としてのみどりの景観を、それぞれ形成しています。

この地区の生態系は多摩丘陵の里山を維持することで守られています。多摩ニュータウンで最初に整備された、別所地区の面積19.8ヘクタールの『長池公園』に続き、堀之内地区の面積5.2ヘクタールの地域が、『堀之内寺沢里山公園』として整備され、現在は、隣接の「19住区東山地区」の開発も緑の保全を重視した計画で進められています。

さらに、堀之内の里山について、東京都の自然保護条例による里山保全地域の指定も決定し、緑の保全が進んでいます。

大気と河川の水質については、八王子市全地区に係わることであることから、関係団体と連携してNO₂の測定及び大栗川・大田川の水質調査を継続しています。

■ 自然環境

今年も、「多摩丘陵の自然を守る会」の協力を得て、春・秋に『自然観察会』を実施し、又4月には『自然体験講座』として野猿峠バス停に集合し、中山丘陵から神明西谷戸を経て白山神社までの自然観察を行いました。

また、昨年整備された『堀之内寺沢公園』では、毎週土曜日を自然環境の保全と里山の継承の活動日として、地元「堀之内町会」を中心に活発な活動が行われています。

■ 美化・ごみ・エネルギー

南大沢駅前の新たな開発、そして乗降客の増加に伴い、駅周辺の美化活動、禁煙活動にも関心が高まっています。その一環として、南大沢中学校と青少年対策南大沢委員会が中心になり、年に3回の「クリーン・デー」を実施しています。

また、ごみの不法投棄は、引き続きわずかに減少傾向が見られますが、緑地、緑の保護地域があることから、ゲリラ的に発生するので、不法投棄を減少させるためには、今年も継続的な市民・事業者への啓発活動や市への提案が必要です。

なお、南大沢市民センターまつりにおいて、最新のごみ問題・リサイクル関連情報の展示と説明による減量啓発キャンペーンを行うなど、住民の関心を高める活動を続けています。



第1回『グリーン・デー』

■ 環境にかかわる実践活動

今年も、『環境学習室』との連携のもと、「市立学校の環境教育支援活動」に取り組み、各地区環境市民会議の会員の協力を得て、「由木東小学校」、「松が谷小学校」、「上柚木小学校」に対して、大栗川、浅川などでの「環境教育支援活動」を継続して行っています。

また、「長池公園」では、従来『長池里山クラブ』が、「カタクリ」の保全のために“採種・播種”を行っていましたが、指定管理者の『NPOフュージョン長池』の専門的指導を受けて実施することにしました。



長池公園の「カタクリ」



寺沢川（合流点）

■ 河川・水質

河川の水質調査は、今年も6月に「全国水環境マップ実行委員会」や「浅川流域市民フォーラム」などと協力して、水質調査を実施しました。

そのほか独自に、環境診断士のグループによって、3ヵ年計画で実施した、大栗川と大田川や由木地区の池6ヶ所の水質の実態調査は終了し、次の計画を行っています。

■ 大気汚染

毎年、6月と12月の2回、都内全域におけるNO₂の調査は、今年も他の環境市民会議と協力し、データの収集を行いました。

今年の調査指定は、6月4日から6月5日にかけての「第64回NO₂全都一斉測定」と、12月3日から4日にかけての「第65回NO₂全都一斉測定」に参加しました。

結果の数値については、データ集に示しています。結果の分析には他のデータも必要と思われます。

これからも、他の団体と連携を図りながらデータ収集を行っていきます。

また、自動車やバイクについては、アイドリング・ストップの励行、低公害車の購入・使用、ディーゼル車の排出ガス規制などを引き続き広く啓発していきます。



堀之内第3トンネル

地域行動編評価一覧

環境基本計画『地域行動編』の21年度における6地区の環境市民会議の活動実績に基づき、地区ごとに活動内容を内部的に評価したものと、その個々の評価について環境推進会議において相互に評価した結果を掲載しています。

< 中央地区環境市民会議での総括評価 >

まち部会では毎年定点での排気ガス濃度測定を行い、町中ウォッチングで町のみどりの実踏調査をするなどして町の環境の変化を見える形にして成果をあげ、川部会ではガサガサ探検隊や浅川ふしぎ探検、さらにウグイの放流や第9小学校での環境教育支援など子供たちに自然のおもしろさや大切さを伝えることができた。

ごみ・資源・エネルギー部会では、各市民センターまつりやみづき通りフェスティバル、いちようまつり等で環境コーナーを設置し市民に接してごみ分別の詳細やごみ問題への意識付けを行い、省エネ教室では地球温暖化問題に対し市民一人一人が何をすべきか訴え、市民の意識を高めることができた。

< 環境推進会議での相互評価 >

自然体験講座や河川巡回、クリーン作戦など浅川を中心とした活動をはじめ、元横山町公園や市役所通りのアドプト活動への参加は地域に根ざした活動であり、これからも積極的に活動していただきたい。

また、多くのイベントに参加し、ごみの分別や温暖化問題について市民への意識啓発を行ったことは大きな成果となったことから評価できる。

< 北部地区環境市民会議での総括評価 >

水・大気分野では継続的に測定を実施しデータを蓄積中で、今後の環境を検討するうえで有効と考える。

ごみの分野では、定期的に不法投棄のパトロールを実施し市へ報告した。これにより、不法投棄の状況に、かなりの改善がみられた。

みどりの分野では、滝山城跡の下草刈りと遺跡・自然調査を、滝山城跡群の自然と歴史を守る会と共同で行った。また、自然体験講座「道の駅八王子滝山から滝山城跡の散策」等、市民参加行事へ貢献した。

少数の会員ながら昨年度に引き続き、環境フェスティバルへの参加や、小学校の環境学習支援、谷地川の清掃活動など、環境面の啓発活動も活発に行った。

< 環境推進会議での相互評価 >

滝山城跡を中止とした保全活動は継続的に実施されており、その貢献度は高い。引き続き保全活動に努めていただきたい。

また、不法投棄のパトロールや水・大気の測定も継続的に実施されていることは高く評価できるので、引き続き取り組んでいただきたい。

小学校への環境学習支援については、児童だけでなく地域にも大きく貢献できることから、事業の更なる推進に努めていただきたい。

< 西部地区環境市民会議での総括評価 >

川口・元八・恩方の地域特性を活かしながら、町会・自治会、事業者、学校と連携した取り組みが少しずつ具現化して成果が現れてきているほか、自然体験講座では企画から開催までを3地区が持ち回りで担当して実施しているが、活動を統一的に行なうまでには至っていない。

また、定例会では活動実績や今後の取り組みの情報交換や収集データの共有化、データ処理を効率的にできるフォーマット化の取り組みを進めている中、主な活動は河川水質調査、環境保全・不法投棄品収集の活動、マイバック実態調査、学校・地域と連携した体験活動等を定期的に行っているほか、これらの活動で得られた地域データを市民センターまつりや環境フェスティバルで情報提供し、環境市民会議の周知と地域活動に協力・参加をお願いしている。

今後の活動を広く地域展開するには、町会・自治会、事業者、学校と連携した取り組みを最重要課題と位置づけ、そのための情報発信や会員増強に向けての取り組みを進めていく。

< 環境推進会議での相互評価 >

3地区に分かれて地域特性を活かした活動を行っており、時間を掛けて3地区の連携が図れるよう努めていただきたい。

なお、定例会において情報交換やデータの共有化、又データ処理のフォーマット化など、積極的に取り入れていることは活動の拡充と活性化につながることから、これからも定例会での推進に努めていただきたい。

また、マイバックの普及実態調査やレジ袋削減アンケートなど工夫を凝らした活動は大変有効であることから、継続して取り組んでいただきたい。

< 西南部地区環境市民会議での総括評価 >

高尾山の自然保護を大きなテーマに、環境変化を観察するための環境指標樹木を設定して写真による記録を継続するほか、来山者の増加により貴重な自然を失う恐れやトイレ不足等の問題を各種活動の中で訴えている。また、市が検討を進めている旧高尾自然科学博物館跡地の「高尾の里拠点施設」の設計・運営等に対して、多くの人に親しまれる魅力ある施設とするように働きかけている。エコミュージアム構想に基づき作成した「市街編」と「高尾編」のマップ、更には「地域の宝の掘り起こし」の取り組みを自然体験講座で紹介し好評を得た。

里山保全活動では、池の沢館町緑地にてホタルの観察会、自然体験講座や企業研修を実施し成果を得ているほか、河川水質検査や大気汚染測定、水質改善に伴う蛍の復活調査を行った結果を環境フェスティバルや市民センターまつりで展示し好評を得た。ごみ分野では公園の落葉や生ゴミを堆肥化しているほか、いちょう祭りでは高校の生徒に対しごみ分別指導を行った。

< 環境推進会議での相互評価 >

高尾山を中心とした活動を主に行っている中、5年間行っている樹木調査や高尾山に関わる協議会や検討会などにも参加し、積極的に意見・提案などしていることは評価できる。今後も高尾山の良好な環境づくりに取り組んでいただきたい。

また、環境教育支援や東京グリーンシップアクションでは、ほぼ毎月取り組んでおり、地域貢献の面からも大変有効であり、引き続き取り組んでいただきたい。

< 東南部地区環境市民会議での総括評価 >

「夏休み浅川自然体験講座」(川の生きもの調査等)と「秋の長沼自然体験講座」(長沼公園散策等)を実施したほか、みどりの保全では近隣自治会との連携で、独自のハイキングマップを使い地域の自然と歴史に親しんでもらえた。河川水質が安定している中、引き続き年4回の河川清掃を行い、親子の川の生きものと水質調査や川遊びなどのイベントを通して、美しい川・親しみやすい川・遊びたい川づくりに取り組んでいる。また、一層のごみ減量を実現するため、組成分析の立ち会いと資源混入率の市民啓発、スーパーのマイバッグ利用促進の啓発活動やたばこのポイ捨て防止の啓発に努めた。都市の美観では、「北野駅前定期清掃活動」を開始したほか、地球温暖化防止を啓発するため大気汚染測定から大気の大気さの学習やケナフの苗の配布を行った。

従来から定期的に行っている河川清掃や、学校・事業者による定期清掃の結果が「きれいさ評価」に現れている。

< 環境推進会議での相互評価 >

毎月取り組んでいる大塚山公園の清掃活動や北野駅周辺の清掃活動は、地域貢献に大きな成果を上げており、今後も継続して活動の輪を広げていきたい。

また、浅川や湯殿川で取り組んだ清掃活動をはじめ、子どもたちを対象にした自然体験講座や水質調査など河川を中心とした活動は大きな成果となっていることから、引き続き積極的な取り組みに努めていきたい。

< 東部地区環境市民会議での総括評価 >

里山での活動をはじめ、春の自然観察会では自然体験講座として中山地区を巡り、希少種のタマノカンアオイやキンラン、ギンランなどの観察ができたが、秋の自然体験講座の「巨樹・巨木めぐり」の関心が高かったが、雨のため中止となった。

堀之内寺沢里山公園が整備され、長池公園と並んで2つの公園で公園アドプトに参加するとともに、自然環境の保全と里山の継承活動を行っている。

南大沢と由木中央の市民センターまつりなどに参加し、ごみ減量啓発キャンペーンや東部地区環境市民会議の活動をパネル展示したほか、南大沢地区の年3回の「クリーンデー」への参加、南大沢駅前の花壇の維持管理など地域の美化に努めるとともに、「由木東小学校」、「松が谷小学校」及び「上柚木小学校」で環境教育支援活動を行った。

なお、大気汚染測定や河川水質調査は継続的に行っている。

< 環境推進会議での相互評価 >

残された自然環境を身近に感じていただくための自然体験講座はとても重要な位置づけとなっている。今後も地域特性を活かした活動の一環として取り組んでいきたい。

また、市民センターまつりや環境フェスティバルをとおして、地域環境の周知を図ったことについては、今後も積極的に参加していただきたい。

なお、環境教育支援事業は活動の一環となっていることから、環境意識の向上と地域貢献を図るためにも、積極的な取り組みに努めていきたい。